

CASBEE®-建築(新築)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)大阪府茨木市蔵垣内一丁目計画	階数	地上4F
建設地	大阪府茨木市	構造	S造
用途地域	工業地域、準防火地域	平均居住人員	1,332 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,880 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2024年1月 竣工	評価の実施日	2023年10月30日
敷地面積	64,510 m ²	作成者	
建築面積	41,784 m ²	確認日	2023年10月30日
延床面積	161,399 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 3.4 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★ C: ★ 環境負荷 L (0 to 100) vs 環境品質 Q (0 to 100)	標準計算 ① 参照値: 100% ② 建築物の取組み: 62% ③ 上記+②以外の: 62% ④ 上記+: 62% このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO ₂ 排出量の目安で示したものです	Q2 サービス性能 Q1 室内環境 Q2 サービス性能 Q3 室外環境(敷地内) LR1 エネルギー LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境 Q のスコア = 3.3

2-4 中項目の評価(バーチャート)
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア= 0.0 音環境: N.A., 温熱環境: N.A., 光・視環境: N.A., 空気質環境: N.A. Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.6 機能性: N.A., 耐用性: 3.1, 対応性: 4.2 Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 3.1 生物環境: 3.0, まちなみ: 3.0, 地域性・: 3.5
LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.7 建物外皮の: 5.0, 自然エネ: 3.0, 設備システ: 5.0, 効率的: 4.5 LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.9 水資源: 3.4, 非再生材料の: 4.0, 汚染物質: 4.3 LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 4.1 地球温暖化: 4.5, 地域環境: 3.7, 周辺環境: 4.2

3 設計上の配慮事項		
総合 設備システムの高効率化を中心に、緑化による生物環境の保全、燃焼機器を使用しない事で高温排熱を出さない及び大気汚染物質を抑制、交通負荷抑制、空間形状の自由等に配慮をしている施設		その他 特になし
Q1 室内環境 評価対象外	Q2 サービス性能 外壁仕上材の補修必要間隔、設備配管の耐震、階高、空間形状の自由度、設備配管の更新性等に配慮した	Q3 室外環境（敷地内） 緑化による環境配慮（生物環境の保全）、燃焼機器を使用しない（高温排熱を出さない）事に配慮した
LR1 エネルギー 設備システムの高効率化によりBEI値：0.00を達成している	LR2 資源・マテリアル 衛生器具の節水、躯体材料及び非躯体材料においてリサイクル資材を採用、有害物質を含まない材料、環境に配慮した発泡材の採用に配慮をした	LR3 敷地外環境 燃焼機器を使用しない事で大気汚染物質を抑制、交通負荷抑制、廃棄物負荷抑制、光害等に配慮した

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版
(仮称)大阪府茨木市蔵垣内一丁目計画

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

スコアシート		竣工段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								3.3	
Q1 室内環境									
1 音環境				-	-	-	-		
1.1 室内騒音レベル				-	-	-	-		
1.2 遮音				-	-	-	-		
1 開口部遮音性能				-	-	-	-		
2 界壁遮音性能				-	-	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-		
1.3 吸音				-	-	-	-		
2 温熱環境				-	-	-	-		
2.1 室温制御				-	-	-	-		
1 室温				-	-	-	-		
2 外皮性能				-	-	-	-		
3 ゾーン別制御性				-	-	-	-		
2.2 湿度制御				-	-	-	-		
2.3 空調方式				-	-	-	-		
3 光・視環境				-	-	-	-		
3.1 昼光利用				-	-	-	-		
1 昼光率				-	-	-	-		
2 方位別開口				-	-	-	-		
3 昼光利用設備				-	-	-	-		
3.2 グレア対策				-	-	-	-		
1 昼光制御				-	-	-	-		
3.3 照度				-	-	-	-		
3.4 照明制御				-	-	-	-		
4 空気質環境				-	-	-	-		
4.1 発生源対策				-	-	-	-		
1 化学汚染物質				-	-	-	-		
4.2 換気				-	-	-	-		
1 換気量				-	-	-	-		
2 自然換気性能				-	-	-	-		
3 取り入れ外気への配慮				-	-	-	-		
4.3 運用管理				-	-	-	-		
1 CO ₂ の監視				-	-	-	-		
2 喫煙の制御				-	-	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.43	-	-	3.6	
1 機能性				-	-	-	-		
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	-	-		
1 広さ・収納性				-	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応				-	-	-	-		
3 バリアフリー計画				-	-	-	-		
1.2 心理性・快適性				-	-	-	-		
1 広さ感・景観				-	-	-	-		
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-		
3 内装計画				-	-	-	-		
1.3 維持管理				-	-	-	-		
1 維持管理に配慮した設計				-	-	-	-		
2 維持管理用機能の確保				-	-	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.1	0.50	-	-	3.1	
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.6	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		金属サンドイッチパネル外壁材		3.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		モルタル仕上		5.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		VP管(耐火二層管)、SGP管		5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				2.8	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20	-	-		
3 電気設備				3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法		耐震クラスA		4.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				2.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			4.2	0.50	-	-	4.2
3.1 空間のゆとり	3.1 空間のゆとり		5.0	0.30	-	-	
	1	階高のゆとり	階高6m以上	5.0	0.60	-	-
	2	空間の形状・自由さ	壁長さ比0.1以下	5.0	0.40	-	-
	3.2 荷重のゆとり		5.0	0.30	-	-	
	3.3 設備の更新性		3.0	0.40	-	-	
	1	空調配管の更新性	—	3.0	0.20	-	-
	2	給排水管の更新性	構造部材を痛めることなく修繕、更新可能	3.0	0.20	-	-
	3	電気配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-
	4	通信配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-
	5	設備機器の更新性	—	3.0	0.20	-	-
	6	バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			—	0.57	-	-	3.1
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			5.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性							4.3
LR1 エネルギー			—	0.40	-	-	4.7
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI=0.69		5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用	—		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	BEI=0.00		5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率の運用			4.5	0.20	-	-	4.5
	集合住宅以外の評価		4.5	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	エネルギー消費の内訳を把握、比較、分析、評価可能	5.0	0.50	-	-
	4.2	運用管理体制	運用管理の組織、体制、管理方針、責任者の指名、目標値が計	4.0	0.50	-	-
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	—	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			—	0.30	-	-	3.9
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水	節水コマ、省水型機器を採用		4.0	0.40	-	-	
			3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	—	3.0	0.70	-	-
	2	雑排水等利用システム導入の有無	—	3.0	0.30	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			4.0	0.60	-	-	4.0
2.1 材料使用量の削減	—		2.0	0.10	-	-	
	—		3.0	0.20	-	-	
	主要構造部の一部に高炉セメントを採用		5.0	0.20	-	-	
	ビニル床タイル、ロックウール化粧吸音板、インターロッキングブロック		5.0	0.20	-	-	
	—		2.0	0.10	-	-	
	躯体と仕上材が容易に分別可能、内装材と設備が解体・改修・更新		5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.3	0.20	-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用	PRTR法に該当しない材料4種以上		5.0	0.30	-	-	
			4.0	0.70	-	-	
	1	消火剤	—	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0かつGWP=1以下の発泡剤の断熱材を採用	5.0	0.50	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避	使用冷媒はR410A又はR32		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			—	0.30	-	-	4.1
1 地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO2排出率が一般的な建物(参照値)の62%		4.5	0.33	-	-	4.5
2 地域環境への配慮			3.7	0.33	-	-	3.7
2.1 大気汚染防止	燃焼機器を使用していない		5.0	0.25	-	-	
	—		3.0	0.50	-	-	
			4.0	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減	—	3.0	0.25	-	-
	2	汚水処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-
	3	交通負荷抑制	適当な量の駐車、駐輪の確保と利便性、渋滞緩和や路上駐車配	5.0	0.25	-	-
	4	廃棄物処理負荷抑制	ゴミの種類や量を推計、多種分別回収用置場、分別回収容器設	5.0	0.25	-	-
3 周辺環境への配慮			4.2	0.33	-	-	4.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			5.0	0.40	-	-	
	1	騒音	騒音規制法の規制基準注より-10dB以上抑制	5.0	1.00	-	-
	2	振動	—	-	-	-	
	3	悪臭	—	-	-	-	
			3.3	0.40	-	-	
			3.0	0.70	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制	—		1.0	-	-	-	
	1	風害の抑制	—				
	2	砂塵の抑制	—				
	3	日照障害の抑制	日影規制が無い地域だが隣接に日影規制があり、それよりさらに	4.0	0.30	-	-
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	「光害対策ガイドライン」及び「広告物照明の扱い」チェックリストの	5.0	0.70	-	-
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—	3.0	0.30	-	-

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

(仮称)大阪府茨木市蔵垣内一丁目計画

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	2.0	-	-	-	-	-	○	-	○					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-								
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	○						
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	1.0		-	-	○	-	-	-							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	7.0		2.0	-	2.0	-	1.0	-	1.0	-	1.0	-	-		
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	-	-	-	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	5.0		-	-	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	5.0		-	-	-	1.0	-	-	-	2.0	2.0				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-	-	-	-	-	-					
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	1.0	-	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	○	-	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	4.0														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	11.0		1.0	-	-	3.0	1.0	3.0	-	3.0	-	-			
2.3.3 交通負荷抑制	4.0		1.0	-	1.0	1.0	1.0	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	5.0		1.0	1.0	1.0	1.0		-	1.0						
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	-	窓の日射熱取得率(η)	-	
U値(W/m2K)	窓システム	屋根	外壁	床
住戸部分	窓システムU値	外皮UA値	η AC	η AH
屋光率	0.0%			
自然換気有効開口面積率	3.3%			

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース	0.0㎡/人	病床	0.0㎡/床	シングル	0.0㎡ ツイン	0.0㎡
--------	--------	----	--------	------	----------	------

1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容量	0.0 VA/㎡
---------	----------

1.2.1 広さ感・景観

天井高	0 m
-----	-----

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース	0.0%	レストスペース	0.0%
------------	------	---------	------

2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数	0 年
--------	-----

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔	20 年
--------	------

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔	30 年
--------	------

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔	15 年
--------	------

3.1.1 階高のゆとり

階高	6.6.7m m
----	----------

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率	2.5%
-------	------

3.2 荷重のゆとり

床荷重	15,000 N/m ²
-----	-------------------------

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数	28%	建物緑化指数	0%
--------	-----	--------	----

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率	35%	水平投影面積率	3%	地表面对策面積率	11%	舗装面積率	19%
-----	-----	---------	----	----------	-----	-------	-----

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI _m	0.69	断熱等性能等級	対象外 相当
----------------------	------	---------	--------

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年㎡	採光を満たす教室数	0.0%	採光を満たす住戸数	0.0%
--------------	---------	-----------	------	-----------	------

通風を満たす教室数	0.0%	通風を満たす住戸数	0.0%
-----------	------	-----------	------

3 設備システムの高効率化

BPI/BPI _m	非住宅	-	住宅	-	太陽光	0kW	太陽熱等	0kW	蓄電池	0kW
----------------------	-----	---	----	---	-----	-----	------	-----	-----	-----

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率	0.0%
-------	------

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品目	-	エコマーク商品	ビニル床タイル、 白 液体指定品目等	-
--------	---	---------	-------------------------------	---

2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率	0.0%
------	------

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)	
---------------	--	--------------	--

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	1
---------------	---	--------------	---

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	1975
---------------	---	--------------	------

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比		82% 隣棟間隔指標Rw 1.60									
地表面对策面積率		16.0%		屋根面对策面積率		0.0%		外壁面对策面積率		#DIV/0!	
見付面積Sb		4,398㎡		卓越風向と直交する最大敷地幅Ws		245.19 m		基準高さHb		21.75 m	
緑地		4,399㎡		水面		㎡		保水性対策面		㎡	
						高反射対策面		200㎡		再帰性反射対策面	
										㎡	